

## 中山間地域における担い手不足問題の発生と今後の課題

坂本英美 (九州農業試験場)

Hidemi SAKAMOTO : A Problem of Pillar Formation in Less-Favoured Areas

### 1. はじめに

我国の農業全般で担い手不足は課題となっているが、中山間地域では、それが最も先駆的に現れている。そうした地域では、生産・地域資源管理の担い手不足の問題が同時に現れてきており、それに付随して地域コミュニティの崩壊や居住環境悪化の問題も指摘されている。

近年では混合経済的な形態としての第3セクターにより、農山村において最低限公共性のある機能をカバーしようとする試みがとられるケースも増えてきた。本稿では、中山間地域における農業生産の担い手問題や農業構造の研究における課題を整理する。

### 2. 中山間地域における担い手不足進行と担い手研究

中山間地域が現在のように農業生産の担い手や生活面で問題視されるようになってきた要因の一つとして、国土開発政策の方向もあげることができる。全総から4全総までの開発政策は、我国の経済発展を適正な形に進めようとした計画であったが、大都市と地方の経済格差拡大と大都市への人口集中が進行し、数度の見直しがなされたにもかかわらず、農村部の過疎化や担い手不足は確実に進んできた実状がある。

そのような社会・経済情勢に対応し、中山間地域を対象にした研究は60年代後半と80年代以降に多く報告されており、しかも農業後退的な中で生産力の担い手が形成されにくいという問題意識においては共通していた<sup>1)</sup>。

それに関して、「過疎化を逆手にとる経営展開」の存在も主張されている。そのなかでは、地域ブロックごとに担い手の展開状況に違いがあることが示されている<sup>2)</sup>。これは、東北や九州地域にみられる展開型では前進的性格の農地流動化と拡大志向農家が成立可能で、後退的な生産力条件でも、地域によっては農業や地域の生き残りの芽を見いだすことができるという主張である。

中山間地域の担い手については、以上のような生産力構造的側面の他に、居住環境の要因も重要である。例えば、生活環境のインフラストラクチャー整備を行っていく場合、地域の特性を考慮して地域住民が選択することを考えないと地域個性が消失し、日本全国の地域という地域すべてが画一化されるという事態がこれからも進む<sup>3)</sup>と考えられる。画一化というのは資本主義経済を進める上での必要悪ともいえる手段であったもので、それを何の思慮もなく、中山間地域振興の手段として用いることは、固有性や文化の喪失にもつながりかねない。固有性や文化の喪失は、担い手にとって居住することの要因・価値の喪失につながるであろう。

社会および農村に生じている構造変化に対応し、計画的空間秩序形成が必要であるとの主張もある<sup>4)</sup>。これも居住者にとって、あるいは農村を訪れる人にとっても魅力のある農村景観等を計画する必要性を主張している。

### 3. 担い手形成をめぐる近年の論議と今後の課題

第3セクターが農家・地域の担い手に代わることにについては、肯定する意見と、慎重であるべきとする意見とで大きく2つに分かれている。

それを踏まえ、慎重論側の理由のひとつである、個別経営と競争する等の問題点を解消するために、第3セクターにインキュベート機能や農地集積機能を組み込んでいくことに配慮した形態が提案されている<sup>5)</sup>。

第3セクターの果たしている役割としては、①集約的農家・土地利用型農家支援育成機能②中小規模兼業農家の支援③高齢農家支援機能などがあると考えられる。①の機能が果たせれば地域農業の生産力向上にも寄与し、理想的であるが、すべての地域での適用は難しい。そこで②の中小規模兼業農家の支援もなされている。これは、農外条件も視野にいれ、兼業農家を地域資源の担い手と認知した上で支援していこうとする考え方である。一方、この場合、第3セクターが担い手の補完的役割を超えて代替する恐れがあることについては注意が必要であるが、急激な農地壊廃を避ける面からは、緊急避難的な措置であり評価できる。このように地域によっては、農地集積や拡大志向型個別農家の育成とは違う、機能を担わざるを得ない第3セクターも生じており、その性質の違いに注目した研究の観点も必要であると考えられる。

また、中山間地域の厳しい生産環境の克服は多様な生産・販売方法で行われており、その際のアイデアや内発的エネルギーを消失させないようなインフラ整備や第3セクター等の公的支援が望まれる。

### 引用文献

- 1) 80年代以降の研究として、野田公夫：限界地における高借地率現象，農政調査委員会，1985等があげられる。
- 2) 柏 雅之：現代中山間地域農業論，お茶の水書房，67-303，1994。
- 3) 下河辺淳：座談会 中山間地政策をどうするか，日本農業年報 40，大内力・梶井功編：192-193，1993。
- 4) 辻 雅男：農村における計画的な空間秩序形成，農業及び園芸 64 (9)：1-2，1989。
- 5) 辻 雅男：土地の権利調整に関する一試論，農村計画 10 (1)，18-20，1981。